

本県花き園芸の推移（切花、鉢物、球根養成）

年次	栽培面積 (ha)	生産額 (千円)
昭和36年	51	130,078
37	76	214,578
38	90	319,073
39	100	260,344
40	97	284,270
41	105	295,319
42	144	451,902
43	118	569,285
44	134	578,111
45	161	781,092
46	212	979,650
47	209	1,022,734
48	218	1,127,699
49 (見込)	228	1,452,320

○熊飽地域では、熊本市で菊、カーネーション、バラ、カラーなど数多くの品目が栽培されていますが、近年、都市化の影響で全体的に栽培が減少している状況です。

○宇城地域は、富合町のカーネーション、小川町のカーネーション、また松橋町でシクラメンを中心とする鉢物、三角町のナデシコなどの暖地露地（一部ハウス）草花の栽培が行なわれています。特に最近の傾向として鉢物類の生産の伸びが拡大しています。

○鹿本地域については、鹿本町、山鹿市、鹿北町を中心に菊の生産が年々増加し、地理的にも県外出荷の産地として今後の発展が期待されています。

○菊池地域は、七城町でカラー、菊池市でストックが生産されているが、カラーは定着し栽培面積の増減はないがストックについては導入されて日も浅く面積も少ない。

○上益城地域においては、甲佐町で菊、

昭和48年花き生産実績

項目	面積	生産額	
		千本	千円
きく	6,000	25,296	305,017
カーネーション	701	13,240	134,377
ユリ	353	1,146	42,355
チューリップ	30	213	6,620
ストック	252	1,148	17,347
ばら	443	4,547	93,564
枝もの類	5,485	14,572	97,747
その他切花類	7,795	35,780	336,360
鉢物類	231	363	77,652
花壇用苗物	110	577	9,190
球根養成	357	1,923	7,470
計	21,757	98,805	1,127,699

枝もの類が生産されており特に正月用のナンテンは全国に出荷されています。

○八代地域では、宮原町でバラ栽培が行なわれており、年々その産地化がはかられています。

○天草地域については、大矢野町で暖地露地（一部ハウス）草花の生産が行なわれているが栽培面積も約四十ヘクタールとほとんど変動はありません。

○その他の地域では、高冷地（上益城、阿蘇）でりんどうの生産が年々増加し、県内自給はもとより県外出荷を目指して産地を育成しています。また芦北町ではアイリスの球根養成が行なわれ、年々着実に増加してきています。

二、問題点と今後の方向

- 本県の花き園芸は、恵まれた気象条件のもとに年々栽培面積は増加しています。が、まだ産地の生産規模が小さく、計画的な生産、出荷体制の遅れなど解決を図らなければならぬ点を多くかかえています。
- 今後の方向としては、産地規模の拡大をはかり、京浜、京阪神等大消費地域への出荷を主体とした産地体制の確立を図ることが必要です。そのため、栽培技術の改善、向上はもとより、計画的な生産出荷、産地の集約化、施設の近代化、機械化を促進して県外市場の要求に対応する必要があります。
- 三、県の対策
- (一) 組織の育成強化
熊本県花き協会を中心として各産地各団体の連絡をより密にし、技術の平準化と生産、出荷の計画化など組織活動を促進する。
- (二) 流通の合理化
計画的な生産、出荷を推進することにより、共同販売体制の確立と販路拡大をはかる。
- (三) 産地の近代化
1 生産手段の近代化……共同育苗施設など共同利用施設を導入し省力化をはかる。
2 施設の近代化……農業改良、農業近代化、総合施設などの制度資金の活用を促進し生産管理施設の近代化をはかる。
3 優良種苗の増殖普及……優良種苗の導入、無病苗の増殖配布を実施し、品質向上と生産の安定をはかる。
- (四) 産地の育成対策
1 花き集約産地育成指導……花き産地の育成のための指導を積極的に行なう。
2 新産地開発……高冷地花きを中心に立地条件を生かした新しい産地を開発育成する。

明治気質は残っている

西合志町須屋 境 次男

「四十年農業せよと教え来し、我残生ぞ土に生きなむ」。十三年前学校を停年退職して百姓を始めようとしたら家内は勿論親類一同大反対、土地も家も無くその上八人の子供の中三人がまだ高校以下でこれから教育に金が要るといふ時である。妻が真剣に反対し親類が危ぶむのも無理からぬことであつた。「何かほかにありそうなもの」と皆が言う六十からの私の農業」。皆の反対を押し切り現在地に畑四反を求めその中に住居と物置、小さな豚舎や鶏舎を作つたら退職金はほとんど無くなった。恩給は三万円、主作物の二反程の葡萄が生長する迄の三、四年間は全く余裕無きギリギリの生活、然し緑に包まれ年中新鮮な野菜や四季の果物を腹いっぱい食べる、ある意味では頗る贅沢な生活である。私が此所に来た頃は野中の一軒屋、五、六年経つた頃近くに清田さんという人が移つて来られた。その家に九十幾つとかいふお爺さんがおられたが無類の話好き、熊本の土族の出で台湾に渡り鉄道に勤めていたが明日から恩給がつくという日に恩給で食つてゆく等は潔

しとせず決然退職、事業を興して大成功を収めたが敗戦で帰国、奥さんの里で農業の手伝い等をやり農業でも百姓に負けなかつたと手を示したがその手の指は松の木のように節くれ立って太く頑丈であつた。今は子供さんが会社勤めでご隠居様である。然し寸時も休まず朝早くから夕暮まで庭に出て草取りや野菜作り庭木の手入れ等に精出し、自分こそは百返生きるんだと意気軒昂明治のバックボーンそのものゝ気がして頭が下つた。

我々の若い頃はよく恩給亡国ということを見たり聞いたりの事か今では全くそんな言葉や文字に接することは無くなった。国が金持になり平和国家の為であろうか。国や地方自治体も福祉増進に力を入れていて。誠に有難い事で自分も黙つていても年々恩給は増額され子供も独立してつって七十過ぎてようやく一息つけるようになった。清田さんは九十六歳で亡くなったが足が立てなくなつてからは家人のすきを見て霜の庭を這うり廻つて迄庭仕事をしようとし死の直前迄働いた。清田さんの気骨気概を現代人は消滅させてつてはならないと思う。



消費者行政に思う

熊本市八景水谷 杉田 チツ子

物価の高騰に主婦達が右往左往し、毎日不安な日々を送つていた四十八年の終りにくらべ、今日確かに物価は安定し、品物も揃つて一見落ちついた感じを受けるのであるが果して安定した毎日であるか。

現在の物価は一時の高騰安定であり、値上げ時間待ちと云うのでは、またまた庶民のくらしは厳しくなりそうである。

複雑な社会の動きの中で消費者のくらしを守るための消費者行政としての県では、「生活必需品の安定対策」を初めとして「日用品の価格需給動向調査」「くらしのダイヤル」「消費生活展」「地域食品点検事業」等、行事、情報、あるいは「単位価格表示制度」の実施など、消費者保護行政が一段と体系づけられてきた。私達が消費者問題に取りかかった、昭和四十三年の頃は世はまさに大量生産大量消費のさ中であつたが、

今日では、資源制約の大きな問題をかかえた時期となつた。現状のような経済状態になれば企業はどうしても生産高にだけ目をうばわれ、公害とか、消費者への利益など見捨て勝ちであるが、企業はもろろん、行政としても、苦情の処理だけでなく、企業の責任についても指導して欲しい所である。又消費者は自らの利益を自ら守るといふ考えが大切で、ユニット・プラインシング実施の店舗の利用もせず過大包装を否定しても、それが一部の消費者であつてはならない。仲間を百人、二百人と増して自らの利益を守つてゆく事が最も大切である。

所用の帰路、大津町に建設中の本田技研の工場近くを通つた。関連工場等完成すれば、さぞかし大規模工場地帯となるであろう。先の日立造船と並んで熊本に男子就労工場が増えたことになる。心強いことである。

大企業誘致でその結果得たものが、中小企業への雇用、賃金等の圧迫だけであつてはならない。中小企業自らの企業努力と、行政のきめ細い指導、配慮がなされて、好結果を得て欲しい。この二つの誘致大工場は、美しい熊本の自然を害せず、しかも産業の原動力となり、ひいては熊本を豊かにするもの、はなはだ欲はつた考えを持つ一人である。

(主婦)